



第1回公開授業(中2総合)「北川村のゆず産業の課題解決に向けて考えよう」

今年は、村の課題を考え、村の対策を聞く中で、「ゆず産業」に力を入れていることを知り、圃場整備事業のゆず園（北川モデル）を見学したり、様々な農家の方（昔からの農家、Iターン、Uターン農家）にインタビューしたりしてきました。本時は、三者の農家の方から聞いた情報（困っていること、願い等）をベン図で分類し、その中から、北川村のゆず農家の課題を明らかにすることをねらいとした活動を行いました。話し合う際には、これまで得た情報の中から、理由を付けて考えを伝えることも意識するようにしました。4つのゆず農家の課題が出され、その解決策も少し考えたりしましたが、「まだまだ課題はありそう」「ゆず産業がさかんな他の地域の情報も調べながら解決策を考えていきたい」という声が聞かれました。



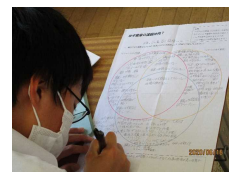
ふり回りから課題を設定



三者のゆず農家の情報をベン図で分類



どう分類したか他グループへ発表



ゆず農家の課題は何か個人思考



グループで課題は何か考える



全体で課題について考える



課題解決策を考える



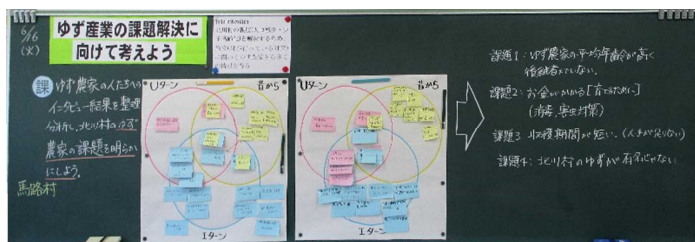
ふり回り（これからのも）

平均年齢が高い 後継者が欲しい
人手が足りないって言ってた

北川村のゆずを広めたいという願望
があるがかなっていない。課題や！

馬路村めっちゃ商品開発しちゃう
馬路に行って情報収集しよう

もっと課題はあると思う。これから解決
策を考えていきたい。



北川村のゆず農家の課題

- 課題1：ゆず農家の平均年齢が高く、後継者がいない
- 課題2：お金がかかる（育てるために 消毒、害虫対策）
- 課題3：収穫期間が短い（人手が足りない）
- 課題4：北川村のゆずが有名じゃない

共通取組事項！

★生徒にとらえさせたいことを明確にしておく（指導案に明記） ←→ チーム（学年団）で共有、支援

指導内容、生徒の意識の流れ、支援方法等一打ち合わせの時間確保

★理由や根拠をもとに議論し合う活動 ←→ 思考を深める発問・問いかけ

体験や資料をもとに（資料の蓄積） ←→ 思考を深めるための効果的な思考ツール

中2の授業映像

「各学年の取組」→「中2」の中にあります

指導助言（白川 AD より）

指導案について

○単元構想がうまくなっている

○指導観：しっかり書かれている

付けたい力を明確にしている。

「本年度は、大好きな郷土のために貢献していこうという態度を育成するとともに、身近な村の産業の課題を知り、解決に向けて自分たちに何ができるのかを主体的に考えることで自分の意思で目標をもって粘り強く取り組む態度も育成したい。」



どういう探究課題で？

北川村のゆず産業で

中学校総合解説 P27～、P69～ 確認してほしい。

○探究課題

探究課題は学校で決める

探究課題を追究していくことで、求められる資質・能力があるか、学校全体で共通確認してほしい。

例示された課題について①②（解説 P23） **A3 の資料参照**

中学校は 4 つの課題が例示

課題：横断的・総合的な課題（現代的な諸課題）

内容：社会の変化に伴って切実に意識させるようになってきた現代社会の諸課題

特性：・持続可能な北川村にしていく課題

- ・よりよい郷土の創造に関わって生じる地域ならではの課題
- ・児童・生徒が地域における自己の関わりで考え、よりよい解決に向けて地域社会で行動していくことが望まれる
- ・既存の教科等の枠組みでは必ずしも適切に扱うことができない

→だから総合で扱う

そういう全体から見て、本時をどうしていくか考えていく。

本時について

○指導と評価の計画の中の位置づけより

- ・ゆず農家を取材し、「I ターン」「U ターン」「昔からの農家」の視点で絞ったのはわかりやすい。
困りごとや願いには同じものや違うものがある。
- ・「I ターンを増やすにはどうする？」「U ターンを増やすには？」「昔からの人の知恵を生かして考えることもできる。
- ・子どもは、村がゆず産業を基盤としていることを知っている。
- ・ゆず農地整備事業を知るーまだ理解していない状態
- ・取材をしてきたが、まだ知る状況（新たな疑問を作り探究していく段階）＝小さなプロセスが回っている状態
- ・ゆず農家の 1 年間の活動についてまとめておくのもいい（例）

見方・考え方

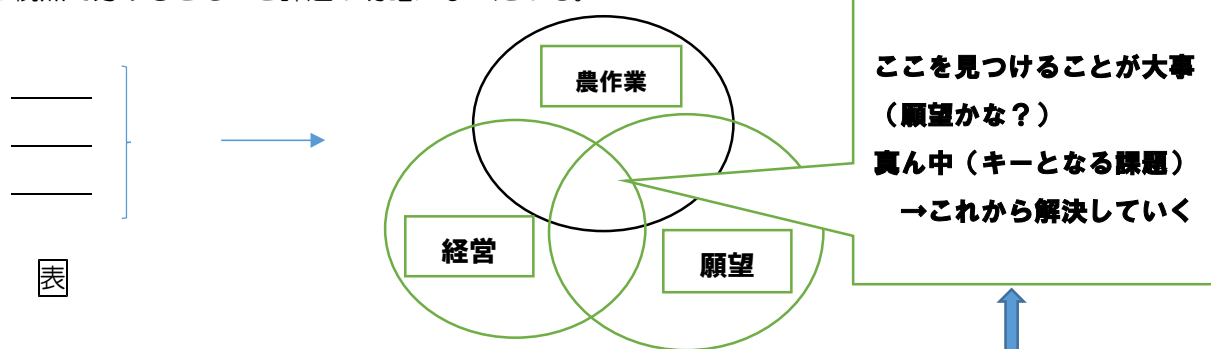
概念としていい

	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
ゆず												
I ,U, 昔												

○生徒の活動について

- ・粘り強く考えることができていた。スピード感よく活動できている。
- ・もっと主体的にできる（積極的とは違う）
子どもが本気になったのは、「前に出てきていいよ、他に考えられることはない？」と問いかけた時。
S1：すばらしいゆずを作りたい、北川村を知ってもらいたいと言っていた
S2：それは「願い」やない？

- ・I、U、昔からの農家の視点に分けていたのはいいが、さらに深めることが大切
最初は、表とかにしておいてから、ベン図で「農作業」「経営戦略」「願い・どういうふうになりたいか」
の視点で分けるともっと課題が明確になったかも。



○板書計画（指導案）

- ・ 出てきそうな意見（課題）を書いておく → チーム（学年団）で指導・助言（声かけ）できる

生徒にとらえてほしいことー評価規準となる

人手不足

後継者不足

広めるための方法をもっと考える

とらえてほしいことを確認しておく

→チーム（学年団）で支援

子どもに任せきり ×

子どもとずれても OK。どうしてずれたかが大事

○根拠をもって考えを伝える（言語活動）

根拠：データや資料をもとに

今日は、理由（インタビューから聞いたこと）をもとに意見を言う活動

S1：かぶってなくてもこれ課題じゃない？

ぼくはこれしんどいと思う。「ゆず栽培の方法を知らん」ということ

S2：研修とかしゅうき大丈夫と思う

S3：栽培やっていれば大丈夫やない？深刻な課題とは思わん

理由（体験等）、根拠（データや資料）をもとに意見を自由に述べ合う活動を

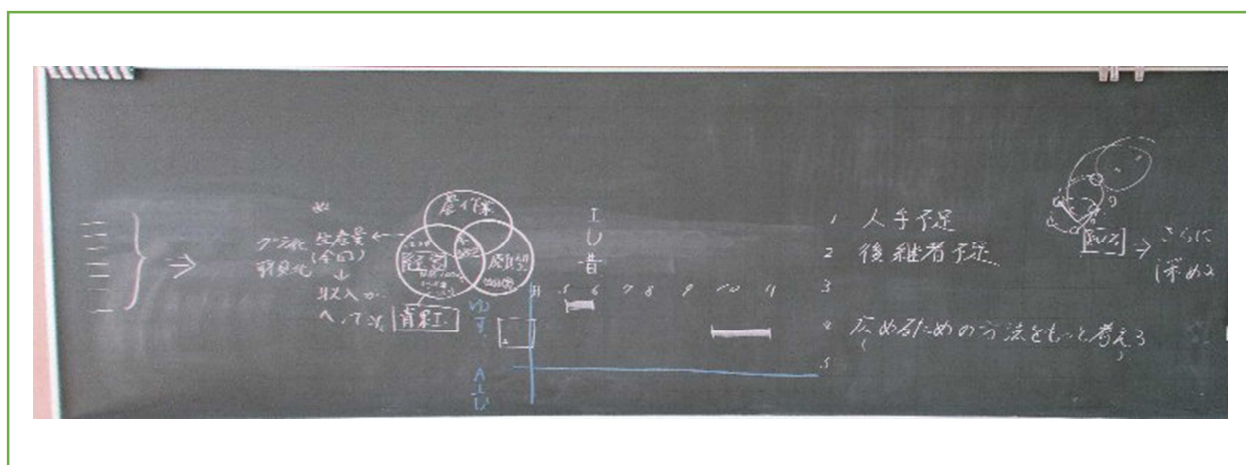
教師は内容に関わる同かけ（作業の指示のみでなく）

I ターンの人にとっては深刻なことで、自由な発言を出すことができています。

あせらずこの真ん中（課題）を見つけては？理由を言いながら。

他の資料を見ながら出せるかも。

今日は、単元の始まりのところを見せてもらった。さらに探究を深めてほしい。



ふりかえりまとめ



1 授業や協議で学んだこと、生かしたいこと

★本時の目標：北川村のゆず農家の課題を明確にするために

○教師が求めるもの（指導内容）を明確にしておく

ゆず農家の課題としてとらえさせたいこと



○チーム(学年団)で共通確認・支援

とらえさせたいことを指導者（学年団）で共有・支援



○板書計画に明記

生徒から出そうな意見、とらえさせたいゆず農家の課題を明記する
評価の見取りにもつながる

○理由・根拠を明確にして議論し合う活動



○教師の発問・問いかけ

キー課題を出すための働きかけ
出された意見を他の生徒にも問いかけるなど、全体で考えさせる。

理由や根拠をもとに自由に議論し合う活動



思考を深めるような教師の働きかけ

○思考ツールの効果的な活用

★項目分けの工夫

- ・「昔からの農家」「Iターン」「Uターン」に色別で分けると、それぞれの課題はわかりやすかったが、情報量が多すぎてわかりにくかった。
- ・「経営」「願い」「農作業」などの項目にすれば、もっとゆず農家の課題が明確にできたのではないか。

★ベン図以外のツールも検討

○資料の蓄積、活用

資料（根拠）や体験（理由）をもとに考える

○いろいろな人材の活用

○探究を深めることで自分事として考えを深める

- ・出された課題をさらに今後深め、新しい問いを発見し、自分ごととして考える。

○生徒の変容や意識をとらえる

1 時間 1 時間の学びがどのくらい生徒に落ちているか、全体で情報共有を丁寧しておく。

2、その他

- 地域の方からたくさん情報収集できていてとてもよかった。
- 「昔から」「I ターン」「U ターン」のゆず農家に着目したことがよかった。もっと主体的になるために、目標とする生徒像に行きつくために、今後の活動を考えていく。
- ベン図は、共通点などが視覚的にわかるので効果的だと感じた。活用していきたい。
- めあてや課題に合った思考ツールを選択、活用する必要がある。
- どのふせんからそう考えたのか、関連づけて説明させていたのがよかった。
- 「願い」「困っていること」から、課題につながっていくという流れがわかりやすかった。
- 課題を出していく中で、「どうしようもないから」という言葉が出ていたが、自分なりに対策を考えようとしているからこそその言葉なのかなと感じた。
- 課題を考える際に、「共通していなくても」という言葉が出ていたが、共通点から課題を探さなくてもよかったのか気になった。
- 自分たちで意見をまとめていけるように育てていかなければいけないと思った。子どもの意見を全体にふる等。
- 生徒が意見を出しやすい発問の仕方や考えを深めやすいアドバイスを工夫する。
- キー課題を出すためにどうしたらよいか考えていきたい。案外、自由に話をさせるのも好いかもしれない。
- 北川村の課題解決のために、他地域にまで目を向けていくところが、4年生との違いの一つだと感じた。
- 4つ課題が出たが、どう解決していくか大人でも難しい。子どものユニークな発想の考えに興味があります。
- 課題解決にはまわり道も必要である。
- 中学校の課題として、チームでの支援方法、事前打ち合わせが大切。
 - 各時間の学びがどのくらい生徒に落ちているか（定着、次を学ぶための土壌）と考えた時、まだまだ弱い。
 - 全体での確認、共有を丁寧にしておくことが必要。
- 自分の課題となっているのか、主体的な活動にどうつなげていくか考える必要がある。
- 知る→新しい問いを発見→知る、自分事として考える、と何度も繰り返していくことで深まっていく。
- 学習指導要領解説を読む。

＜参観者より＞

- 非常に難しい課題に向き合っているなと感じました。課題に対し、みんなで意見を出し合い、試行錯誤を繰り返しながら取り組んでいけば、大きく成長していくのではないかと思います。既に取り組まれていることとは思いますが、村やゆずの課題だけではなく、北川村のゆずの良いところ、他の地域にはない勝っていることをさらに伸ばしていくにはどうするかといった視点で取り組んでみるのも良いのではないかと思います。
- 村の基幹産業に目を向け、昔からの農家やIターン、Uターン農家それぞれの立場から課題を見出していく過程は大変興味深く、よい視点で活動を行っていると思いました。子ども達を目線で課題解決に向けた提言をしてもらえると、例えそれが大人の考えと同じ内容であっても重みが違ってくると思います。これからの学びに期待しています。
- 村の基幹産業であるゆずについて、様々な立場の方からお聞きした内容をもとに、生徒自らが考えて課題を抽出するという、とても良い内容の授業でした。緊張していたのか、生徒の元気がないように感じられましたので、自分の意見をきちんと相手に伝えることができるよう今後ともご指導をお願いします。村では、今年度から国の事業を受けて、農薬散布用ドローンやロボットアームなどの最先端の機器を導入し、ゆず生産者の負担を減らす取り組みをはじめていますので、そういった面からも考える機会を作ってもらえると、より生徒たちの理解が深まると思いました。